

2012年2月研究会

日 時：2012年2月24日（金曜）18:00～19:30

会 場：同志社大学寒梅館 209 教室

講演者：駒村純一（森下仁丹株式会社代表取締役社長）

演 題：「どないすんねん、この会社」

司 会：末永國紀（同志社大学経済学部教授、本学会理事）

主 催：一般社団法人事業承継学会

同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

講師プロフィール

駒村純一（こまむら じゅんいち）

昭和 48 年 3 月、慶應義塾大学工学部応用化学科卒業。昭和 48 年 4 月、三菱商事株式会社入社。平成 8 年 4 月、同社イタリア事業投資先 Miteni 社社長就任。平成 15 年 8 月、森下仁丹株式会社入社（執行役員）。平成 16 年 4 月、当社常務執行役員経営企画室長就任。平成 17 年 4 月、当社専務取締役就任。平成 18 年 10 月、当社代表取締役社長就任。



<講演要旨>

西洋医薬が広く普及する前の昭和の初期までは、銀粒仁丹は家庭薬の雄として君臨し、その配合されている生薬の数と効能から万能薬としての地位を誇っていた。その後、特に太平洋戦争の敗戦の後、急速に押し寄せる西洋化の流れの中で、銀粒仁丹は他の伝統薬同様その地位を失ってゆくこととなり、医薬部外品への指定替えによる口中清涼剤としての地位も消費者の味の嗜好の変化とともに低下し、終に会社存続の危機に直面するまでに至った。それを救ったのがビーズ状に液体を包み込むシームレスカプセル技術であった。

研究会参加者：32名